

令和6年度 第1回向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和6年6月21日(金) 午後3時～午後5時

○場 所 永守重信市民会館 1階 第1会議室

○出席者 (出席委員16名)

安藤和彦委員(会長)、池田和子委員、石村丈乃委員、稲野有亮委員、大川猛委員、小篠由雅子委員、海東紗代子委員、小林陽子委員、佐々木進委員、田中久美子委員、辻知也委員、中川諒委員、松田美佳委員、宮崎晃平委員、宮地健一委員、安場光弘委員

(50音順)

(事務局16人)

【市民サービス部】

柴田市民サービス部長、伊藤市民サービス部副部長、安田市民サービス部副部長、藤野健康推進課長、前田健康推進課係長、岩谷障がい者支援課長、紺野子ども家庭課長、大野子育て支援課長、沢合子育て支援課主幹、山根保育係長、飯野子育て支援係副係長、清水子育て支援係主任

【教育部】

水上教育部長、長谷川教育部副部長、浦元文教課長、上西学校教育課担当課長

○欠席者 (委員4人)

上田睦美委員、津田陽委員、花安肇委員、船倉哲生委員

(50音順)

○傍聴者 1名

○議 題

- (1) 向日市こども計画について
- (2) 実態調査の結果報告について
- (3) こども計画策定にかかるこどもへの意見聴取(こども・若者アンケート調査)の設問内容について
- (4) 令和6年度保育所の入所状況について
- (5) その他(小中学校の児童数等)

<議題1>向日市こども計画について	
事務局	資料1について説明 (資料1についての主な質疑・意見)
委員	子ども子育て支援事業計画とこども計画を合併させることは、良いことだと考える。
事務局	子ども子育て支援事業計画とこども計画は、共通する項目が多い計画で、まとめて

	作成した方がわかりやすいという点に加えて、事務負担軽減にも繋がると考えている。
＜議題２＞実態調査の結果報告について	
事務局	資料２について説明 (資料２についての主な質疑・意見)
委員	子育て支援センター等の利用状況は 10%台と低い状況であり、広報等で周知してほしい。アンケートの中で父の帰宅時間のほとんどが 6 時以降で、時短勤務を使えていないのが実態だ。時短勤務の活用等を企業へ働きかけることについても、必要だと考える。
委員	実態調査の回答率が 40%を超えたのはすごいと思う。 満足度や収入について、他市でも同様のアンケートを実施していると思うが、比較結果はあるか。比較することで向日市の優位性や、足りない部分等が把握できるかもしれない。
事務局	国との比較と併せて、他市町村のアンケート結果との比較検討を今後していく。
委員	満足度低下の要因はなにか。 実態調査の最後の設問に自由記述があったが、どのようなことが書かれていたか。
事務局	現時点では満足度の低下の要因の分析まではできていない。担当課としての推測はニーズの高まりが要因ではないかと考える。 自由記述については、ある程度共通しているような意見があれば、次回の会議で紹介する。
委員	世帯年収等で階層を分けて相関をとることにより、どの層にどういうことが足りていないのか、お金が足りている人が満足しているか、お金が足りていても満足していない人がいるのかどうかなど、踏み込んだ内容が把握できると思う。 行政としてできる範囲は限られると思うが、会社で時短勤務を取れるなら利用するかという質問もあれば良かったと思う。
事務局	階層に分けて相関をとるクロス集計については、業者から該当のデータが提供されていれば分析する。 先ほどから出ている企業への働きかけは、市だけでなく、国や都道府県など行政がそれぞれできることをやっていかないと社会は変わらないと思う。向日市としては、市ができることを考えて計画を進めていく。

委員	不登校の問題で、第5向陽小学校と向陽小学校は実験校となり、不登校の子どもたちの教室があるが、毎日開かれていたか。
事務局	第5向陽小学校には専任の講師がおり、その講師が対応できない時間は教務主任や教頭で対応していた。一時期、専任の講師が休んでいた期間もあったが、その他の教員で対応した。
委員	他市の回答率との比較結果はあるか。 看護休暇制度の周知や、ねこばすのパパのみ参加できるイベントなどの、自分以外にも積極的に育児参加しているお父さんがいることを周知するだけで、現状の改善に向かうと考える。
事務局	実態調査の回答率について、参考程度ではあるが長岡京市は就学前が40.7%、小学生が43.3%というデータがある。
委員	男性も育休や時短勤務の取得推奨と言われているが、実際できている方は稀だと感じた。国やこども家庭庁などがあるべき姿を示しているが、向日市の調査結果に基づき国などへ要望等をしてもらえたらと思う。
委員	実態調査の設問の留守家庭児童会の利用希望について、高学年になっても利用したいという回答が半数以上だが、令和6年5月から5年生6年生が入会できないことが決まった。この状況でなにか対応策等で決まっていることがあれば教えてほしい。
事務局	支援学校に通っている配慮の必要な子どもについては、5年生6年生の入会についても検討していこうと考えている。第1留守家庭児童会などについては、増設を考えており、準備を進めている。他の児童会でも場所や指導員の確保などの課題がある。民間の児童会が増えるように働きかけていくことも考えている。
<p>＜議題3＞こども計画策定にかかるこどもへの意見聴取 （こども・若者アンケート調査）の設問内容について</p>	
事務局	資料3について説明 （資料3についての主な質疑・意見）
委員	ヤングケアラーの設問でなぜお手伝いという言葉を使っているのか。お手伝いは良いことというイメージがあるが、ヤングケアラーが社会問題となっているなか、ヤングケアラーをお手伝いという枠で収めて良いのか。お手伝いという言葉でヤングケアラーの状況を引き出すことができるのか。

事務局	<p>お世話やヤングケアラーという言葉を使用して質問すると、自分がやっていることが悪いことのように、子ども自身がとらえることが良いことだろうかと考え、お手伝いに変更した。</p> <p>質問の趣旨としては、誰かのお世話をしているのかということ把握したいので、広い意味のお手伝いという質問の中から、そのお手伝いの中身を把握することで、質問が意図する結果は得られると考える。</p> <p>この設問だけでヤングケアラーを浮かび上がらせるとは考えておらず、普段の学校の様子、保護者との連携、いじめアンケートの内容、要保護児童対策地域協議会等のネットワークの中での情報を元に、カバーしているところである。</p>
委員	<p>アンケートの目的背景として、実態を調査する目的であれば、ヤングケアラーやお世話という言葉を使用せず、慎重に聞いた方が良いと考える。ヤングケアラーは無自覚である点も問題視されていると思うので、子どもがためらわず答えることができるよう、問 20-1 に当てはまることをやっていますかという聞き方にし、結果から実態を把握する方法が良いと思う。きょうだいの面倒を 3 時間も 4 時間もみていると回答があれば、ヤングケアラーかもしれないと把握できると思う。</p>
委員	<p>このアンケートを 4 年生の子どもにさせたら、私がきょうだいと遊んであげてとお願いしたことについて、きょうだいと遊ばなければいけないから勉強ができないという認識になっていた。</p> <p>ヤングケアラーには、家族だから一緒にいる時間を大切にしたいと思う気持ちと、友だちと遊びたいと思う気持ちと両方あると思う。その中で行政の働きかけがあれば良いと思う。</p>
委員	<p>このアンケートは個別の子どもにフィードバックをするなどの、対応を前提としているアンケートか。</p>
事務局	<p>このアンケートは無記名での回答になるため、個別の子どもへのフィードバック等の対応はない。全体のアンケート結果の子どもへのフィードバックは計画策定後に予定している。</p>
<p>＜議題 4＞令和 6 年度保育所の入所状況について</p> <p>＜議題 5＞その他（小中学校の児童数等）</p>	
事務局	<p>資料 4・5 について説明</p> <p>（資料 4・5 についての主な質疑・意見）</p>
委員	<p>就学前児童人口が毎年 200 人ほど減少している中で、園の統廃合などの計画はある</p>

事務局	か。 現時点での統廃合や閉鎖の計画はない。
-----	------------------------------